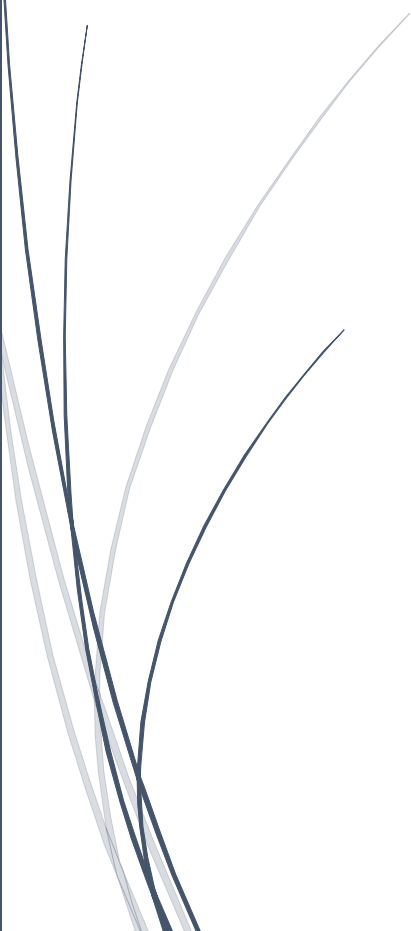


【別添資料Ⅱ】

所属研究団体日本遺伝学会 令和 6 年度

1. 事業報告書



所属研究団体日本遺伝学会 令和6年度 事業報告

事業計画の概要

本会は遺伝に関する研究を奨め、その知識の普及をはかるため、下記の諸事業を実施した。

1. 日本遺伝学会は学会誌 *Genes & Genetic Systems* (GGS) を発行している。令和6年度は、次の改革を行うとともに、GGS prizeの表彰を行った。
 - (1) Volume 99 (2024年)より、号を廃して巻 (Volume) のみとし、準備の整った論文から個々に公開することにした。
 - (2) オーストラリアから3名、シンガポールから1名のEditorを新たに迎え入れ、国際化をさらに推進した。
 - (3) Managing editorを合計4名とし、増加する投稿数に対応した。また、日本人editor 3名が新たに就任し、編集顧問2名が退任した。
 - (4) Instructions to Authors (ITA)を改定した。(Materials and Methodの項の改定(研究材料のIDの明確化の記載の厳密化)、及び、Data Availability(生データへのアクセス法の記載)の項の追加)
 - (5) 非会員APCを30万円に値上げした。(会員のAPCは据え置き)。
 - (6) APCを徴収するクレジット業者を変更した。また、APC徴収に関わるクレジット手数料を著者に請求することとした(今までは、未徴収)。
 - (7) 出版社をレタープレス社から、(株)ジェーピーシー社に変更し、DTP出版化による経費削減を図った。
 - (8) 2024年度 GGS prizeを次の3報に決定した。
 - Title
Unveiling the expansion of keratin genes in lungfishes: a possible link to terrestrial adaptation.
Yuki Kimura, Masato Nikaido
Published in *Genes & Genetic Systems* 2023 98(5)249-257.
 - Title
SARS-CoV-2 HaploGraph: visualization of SARS-CoV-2 haplotype spread in Japan.
So Nakagawa, Toshiaki Katayama, Lihua Jin, Jiaqi Wu, Kirill Kryukov, Rise Oyachi, Junko S Takeuchi, Takatomo Fujisawa, Satomi Asano, Momoka Komatsu, Jun-ichi Onami, Takashi Abe, Masanori Arita
Published in *Genes & Genetic Systems* 2023 98(5)221-237.
 - Title
Promoter generation for the chimeric sex-determining gene *dm-W* in *Xenopus* frogs.
Shun Hayashi, Kei Tamura, Daisuke Tsukamoto, Yusaku Ogita, Nobuhiko Takamatsu, Michihiko Ito
Published in *Genes & Genetic Systems* 2023 98(2)53-60.
2. 第96回遺伝学会大会を高知工科大学永国寺キャンパスで開催した。
(参加者318名)
 - (1) 学会員を対象とした一般口頭発表を開催した。(一般講演111演題、ポスター発表47演題)
 - (2) 海外より研究者Dr. Kaustuv Sanyal, Dr.Nicolas Altemoseを招聘し、国際シンポジウム「Incredible diversity of centromere セントロメアの驚くべき多様性」を開催した。(1件、5演題)
 - (3) 国内シンポジウムを開催した。(1件、6演題)

- (4) テーマ毎による会員、非会員によるワークショップを開催した。(11件、46演題)
- (5) 大会で発表する学生の大会参加旅費の一部を援助した。(31件、748,000円)
- (6) 男女共同参画推進の一環として大会中に男女共同参画推進ランチョンフォーラム「子ども・仕事・上司・理解・研究・できない・学会・いけない、、、。アンケート調査から見えてきた、みんなの悩みのキーワード。でも解決のヒントはあるはず。さあ、Slidoであなたの意見を届けよう！」を開催した。
- (7) 第95回大会 Best Papers賞受賞者によるプレナリーワークショップをランチョン形式で開催した。
- (8) 第96回大会一般口頭発表からBest Papers賞を12名に授与した。
- (9) 第96回大会ポスター発表者からポスター賞 (Young Best Poster賞) を7名に授与した。
- (10) Academia Sinica (台湾) から学生2名を招聘し、口頭発表を行った。さらに、それぞれの学生が京都大学の辰巳晋一先生、及び、理化学研究所の中村友輝先生の研究室を訪問する機会を支援し、国際化を推進した。
- (11) 遺伝学若手の会による「遺伝学若手の会 研究交流会 vol. 7—遺伝学の皿鉢(さわち)—」をワークショップ枠で開催した。
- (12) シニアランチョンワークショップとして、2名のシニア会員による「マイリサーチヒストリー」を開催した。
- (13) 大会最終日の総会後、木原賞・奨励賞の授賞式、及び、受賞講演を開催した
- (14) 会期翌日の9月7日(土)に、高知県立牧野植物園において公開市民講座『すごいぞ！四国の植物遺伝資源』を開催した。

3. 木原賞・奨励賞の授与

6月20日にオンラインにて開催された学会賞選考委員会で審議の結果、次の会員を受賞者とした。

木原賞：颯田 葉子会員

奨励賞：越阪部 晃永会員、茶谷 悠平会員、鶴木 元香会員

4. 遺伝学談話会の開催

第22回 遺伝学談話会を中部地区の隅山健太会員が世話人をつとめ、10月25日に名古屋大学にて開催し、名古屋大学の石川由希先生、基礎生物学研究所の新美輝幸先生にご講演いただいた。

5. 春季分科会

第5回日本遺伝学会「春の分科会」を3月5日に国立遺伝学研究所講堂にて開催した前日の4日に若手の会企画「若手研究者のリアル」を開催した。

6. 委員会の活動等

(1) 遺伝学教育用語検討委員会

「遺伝学教育用語検討委員会」を設置し、引き続き遺伝学に関する学術教育用語の整理を進めた。また、学会横断型の生物用語検討委員会である「細胞小器官用語検討委員会」に当該委員会から委員を派遣し、現在も該当する用語について検討を行っている。

(2) 男女共同参画推進委員会

引き続き男女共同参画学会協連絡会へ参加し、遺伝学会会員および海外研究者対象に育児休業等に関するアンケート調査した。また、第96回大会初日にフォーラムを開催した。

(3) 将来計画委員会

第96回大会で日本遺伝学会将来計画アンケートを実施した。

- (4) 生物科学学会連合
生物科学学会連合における遺伝学会の活動として「生物教育・大学入試問題検討委員会」に参画した。
- (5) 自然史学会連合
本学会は自然史科学の研究・教育の振興を目的として、動物学・植物学・地学など主に基礎的な野外科学に関連する学会と協力して、幅広い活動を進めた
- (6) 遺伝学若手の会による交流会等の活動を支援した。

7. 国際活動等

- (1) Genetic Society of Australasia (GSA)と合同開催のAsia-Pacific Genetics Seminar Seriesを継続開催した。
- (2) タイ遺伝学会が主催する国際学会 (International Conference of the Genetics Society of Thailand ICGST [5/31-6/1])へ岩崎博史会員と二階堂雅人会員が招聘され、研究発表を行った。
- (3) 第23回国際遺伝学会 (The 23rd International Congress of Genetics 2025 (7/12-21メルボルン) に有志数名が参加した。
- (4) 9月、日本遺伝学会は国際遺伝学連携 (IGF) へ再加入した。
- (5) 韓国遺伝学会が主催する国際学会 (International Conference of the Genetics Society of Korea 2024 ICGSK2024 [10/16-18])へ小林武彦会員と入江直樹会員が招聘され、研究発表を行った。
- (6) ICGSK2024会期中に開催された1st Asian Genetics Society Representative meetingに岩崎博史日本遺伝学会会長が参加した。
- (7) 10月、韓国遺伝学会と日本遺伝学会は、MOUを締結した。

8. 会則第6条、第7条の文言を改正し、令和6年9月6日から施行した。

公益財団法人遺伝学普及会 日本遺伝学会 役員等名簿

(評議委員、会長及び幹事 任期 令和5年4月1日～令和7年3月31日まで 敬称略)

会長 岩崎 博史

評議委員

全国区	印南 秀樹	角谷 徹仁	片山 勉	河邊 昭
	木下 哲	小林 武彦	佐渡 敬	篠原 美紀
	那須田 周平	深川 竜郎		
北海道地区	伊藤 秀臣	長田 直樹		
東北地区	石川 隆二	鳥羽 大陽		
関東地区	中戸川 仁	松浦 彰		
東京地区	近藤 るみ	野澤 昌文		
中部地区	鐘巻 将人	郷 康広		
関西地区	菅澤 薫	張 秋梅		
中国・四国地区	加藤 太陽	長岐 清孝		
九州地区	石黒 啓一郎	柴田 弘紀		

幹事

国内庶務幹事	颯田 葉子	野々村 賢一	平田 たつみ
渉外庶務幹事	新屋 みのり	菱田 卓	
会計幹事	北野 潤		

編集幹事	榎屋 啓志	澤村 京一		
企画・集会幹事	沖 昌也	Jeffrey Fawcett		
将来計画幹事	荒木 喜美 村山 泰斗	佐々木 真理子	佐瀬 英俊	杉本 道彦
男女共同参画推進担当	一柳 健司 古郡 麻子	大野 みずき 安田 武嗣	藤 泰子 愿山 郁	福田 溪
広報担当、ホームページ編集	遠藤 俊徳	宮城島 進也		
遺伝学普及・教育担当	大学 保一	村井 耕二		
シニア活性化	池村 淑道	中別府 雄作	真木 寿治	
国際連携幹事	相澤 康則 二階堂 雅人	入江 直樹	加納 純子	鈴木 崇之
会計監査	久保 郁	仁木 宏典		

Editorial Board

President

IWASAKI, Hiroshi : Cell Biology Center, Institute of Innovative Research, Tokyo Institute of Technology

Editor-in-Chief

MASUYA, Hiroshi : RIKEN BioResource Research Center

Vice Editor-in-Chief

SAWAMURA, Kyoichi : Evolutionary Genetics, Drosophila

Managing Editor

NISHIHARA, Hidenori : Department of Advanced Bioscience, Graduate School of Agriculture

TAJIMA, Atsushi : Department of Bioinformatics and Genomics

IKEMURA, Toshimichi : Nagahama Institute of Bio-Science and Technology

HIROMI, Yasushi : Developmental Genetics

Reviews Editor

ISHII, Kojiro : School of Environmental Science and Engineering

GGs Prize Editor

NAKAGAWA, Takuro : Graduate School of Science, Osaka University

Editors : 68名

Brief Report Editors : 4名

Advisory Board : 30名